

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 25 年度 第 1 号 2013 年 9 月 30 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

栽培水産試験場 調査研究部

平成 25 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（1 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2013 年 8 月 27 日～9 月 3 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500mの海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を下回った
- ・ 魚群反応の比較的強い海域は噴火湾の湾口部沖
- ・ 反応の比較的強い水深は 200～300m（昨年よりも 50～100m浅い）
- ・ 漁獲物は、尾叉長 40～50cm が主体
- ・ 水深 50～250mの水温は平年よりもやや低く、スケトウダラに好適な水温環境は昨年度よりも浅い水深帯に形成されていた

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から胆振海域にかけて観察されましたが、2009～2011 年度に登別沖でみられた様な強い反応はみられませんでした。その中でも、比較的強い反応がみられたのは噴火湾の湾口部沖の 185、189 海区でした（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、金星丸でこの調査を開始した 2001 年度以降では 2003、2008 および 2001 年度に次ぎ 4 番目に低い値となりました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 150～500mの範囲に観察されました。特に水深 200～300mにかけて比較的強い反応がみられました。（図 4）。
4. トロール調査の結果、水深 250m 付近の反応はスケトウダラ成魚が主体となっていました。漁獲物は尾叉長 40～50cm が主体の組成となっていました（図 5）。
5. 調査海域の水温は、水深 50mまでは平年値（2002～2012 年度のこの調査における平均値）よりも高かったものの、水深 50～250m では平年よりもやや低くなっていました。スケトウダラの生息に好適とされる 5℃以下の水温は、水深 150m 以深にあり、昨年同時期より浅い水深帯にみられました（図 6）。

なお、今回の資源調査の結果は、漁期始め（10～11 月）の状態を予測するために実施しているものです。12 月以降の状況は、11 月下旬に実施する分布調査（2 次調査）により予測する予定です。調査終了後にまたスケトウダラニュースを発行して、来遊状況等をお知らせします。

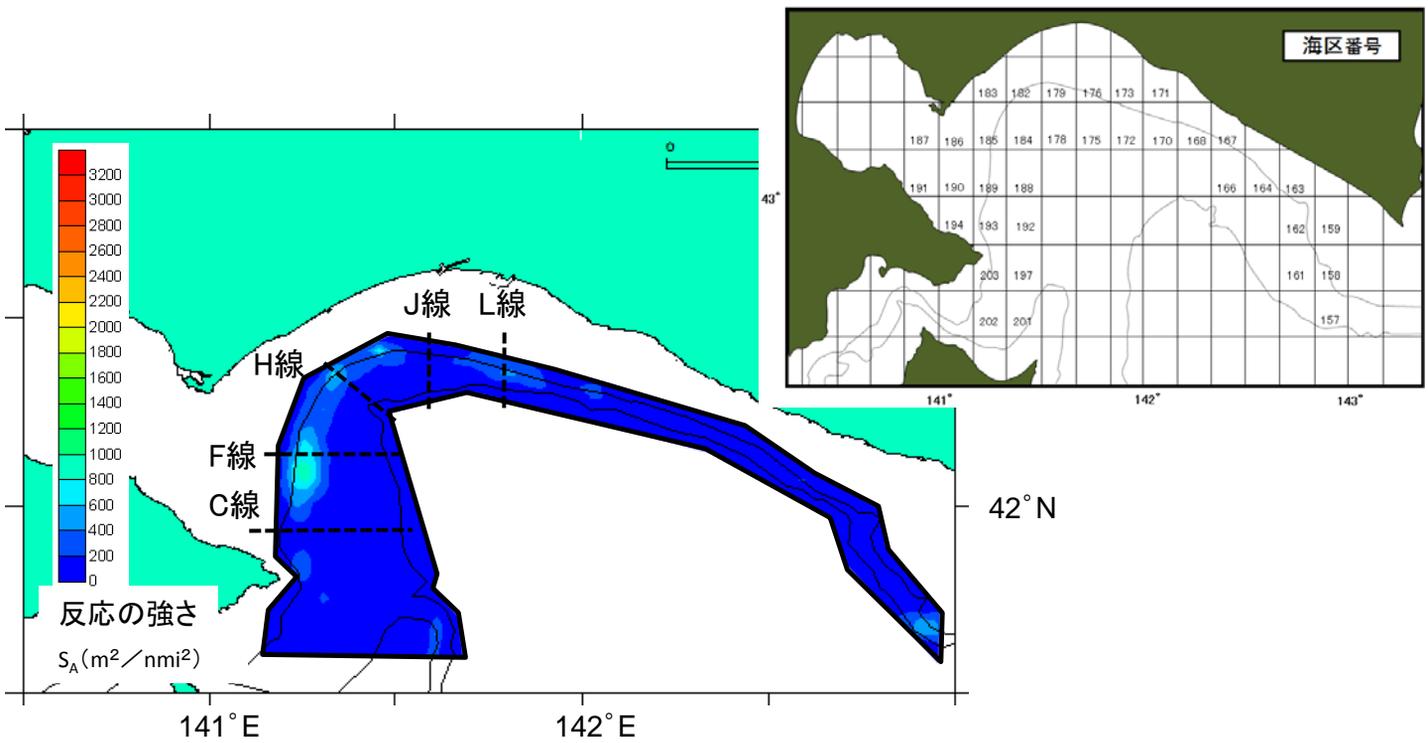


図1 調査海域における魚群の分布

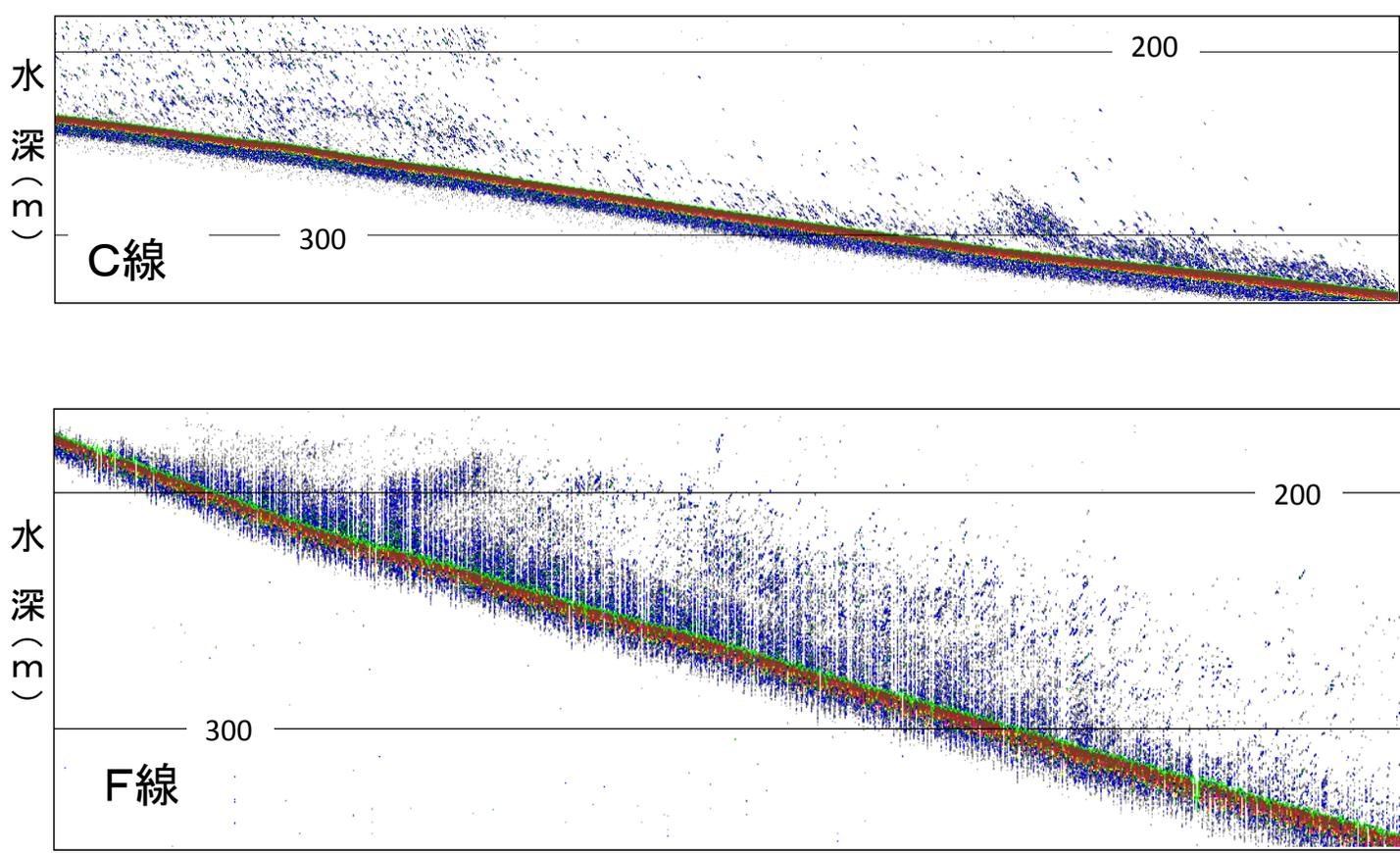


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)

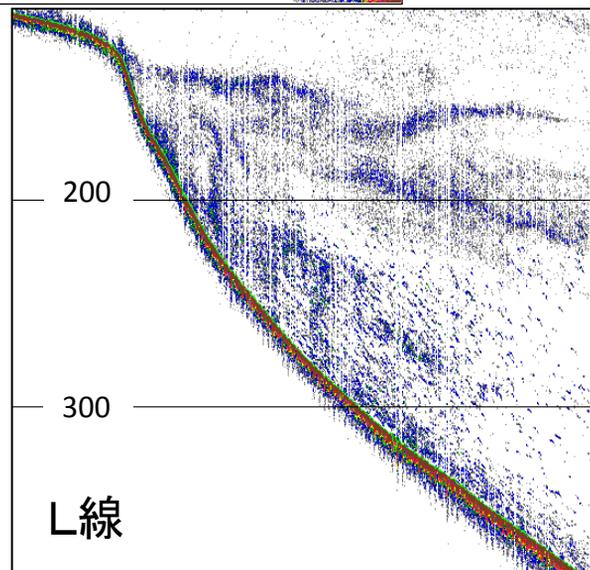
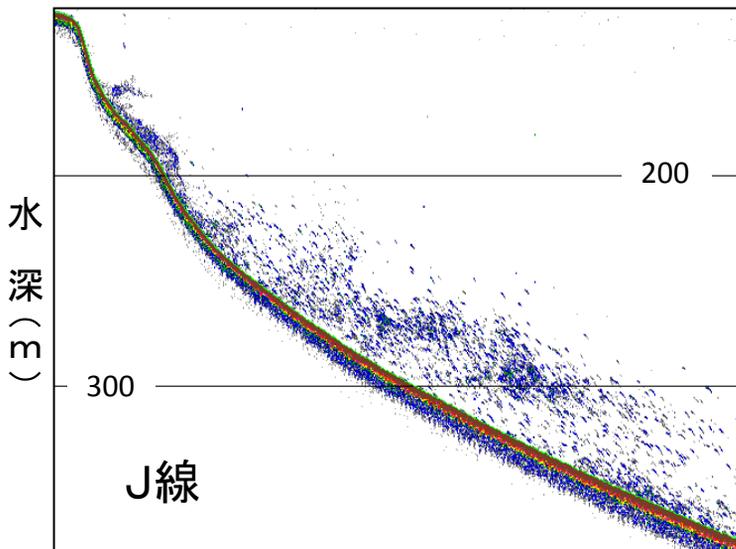
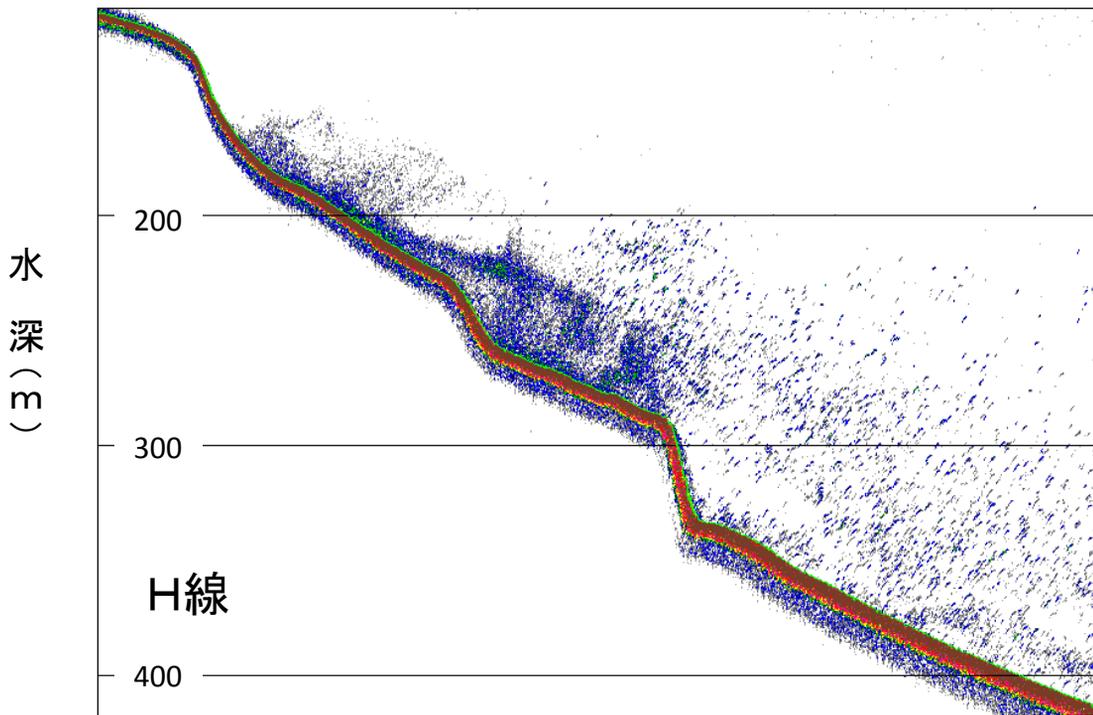


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

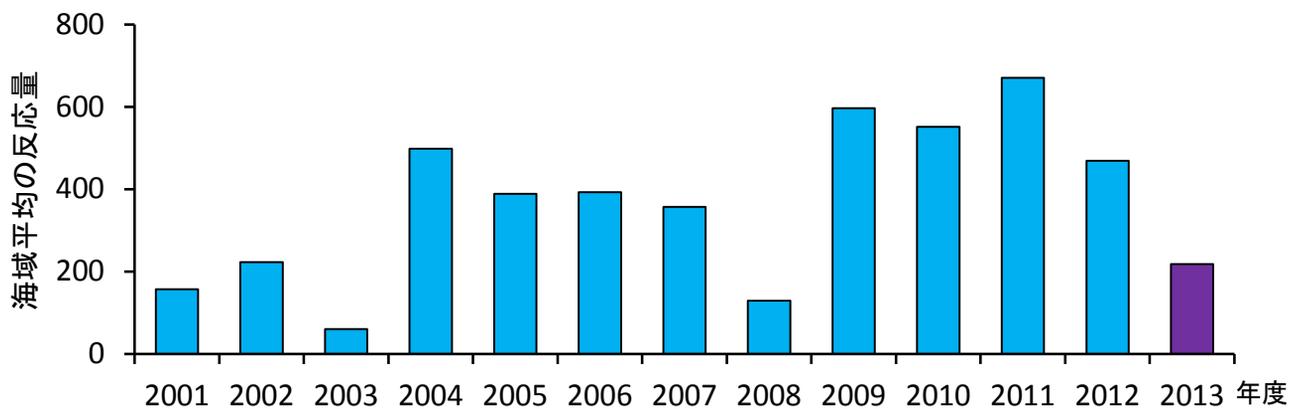


図3 調査海域におけるスケトウダラ魚探反応量の推移

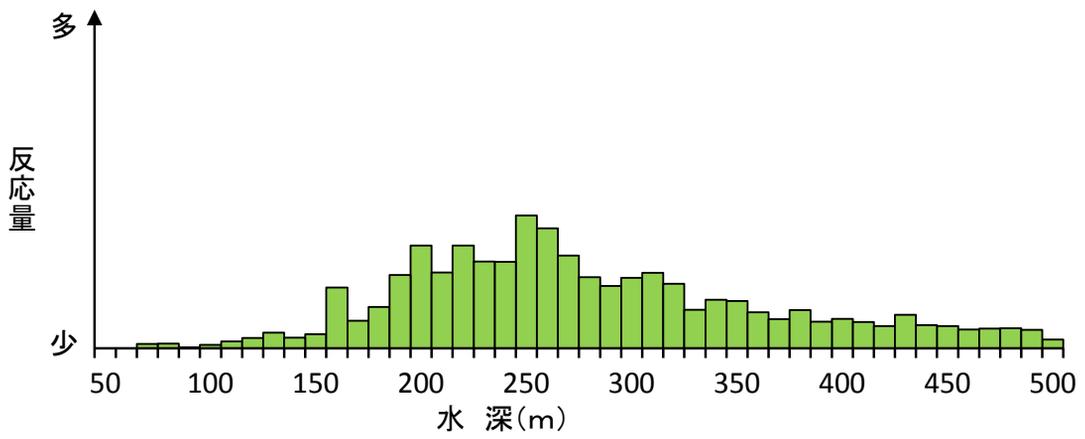


図4 水深別の魚探反応量

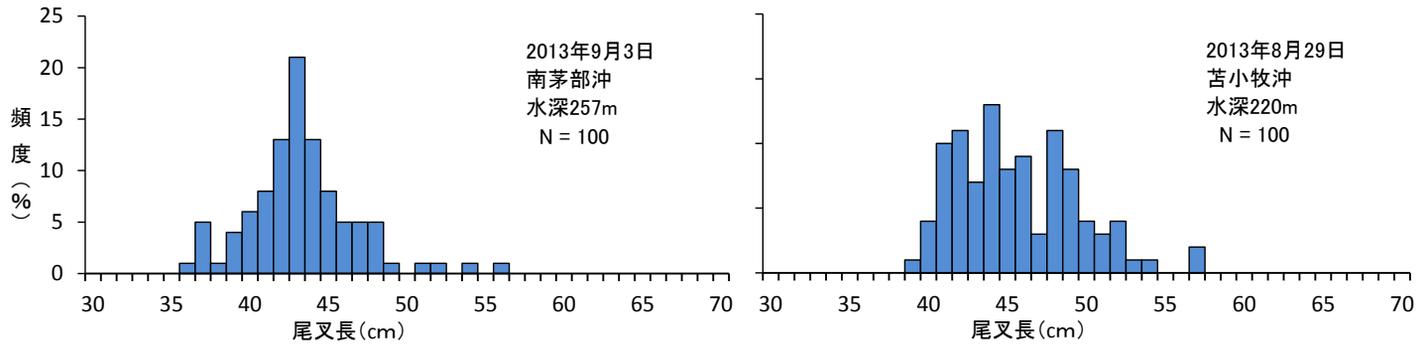


図5 漁獲物の体長組成

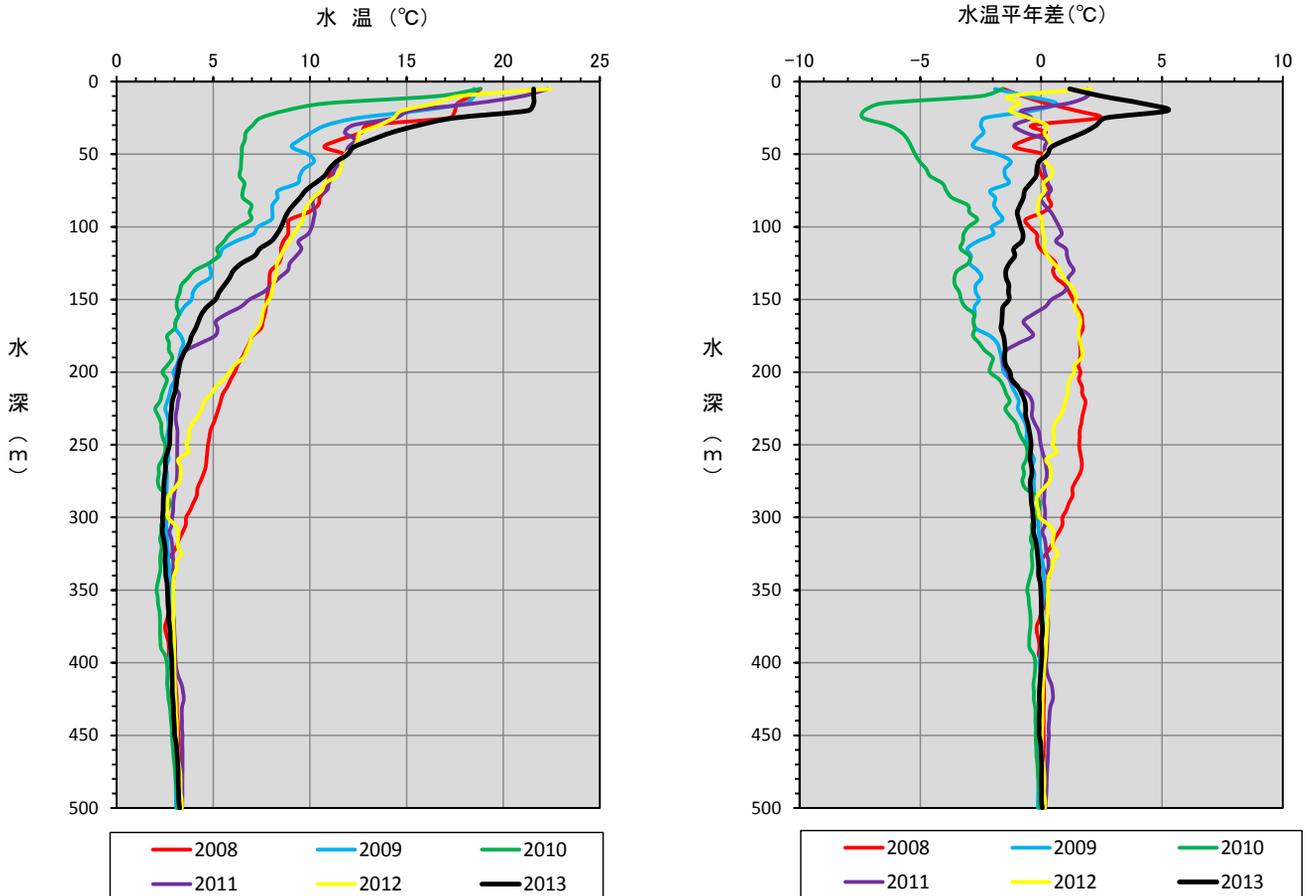


図6 水温の鉛直分布 (8月下旬: 登別沖)